

経営比較分析表（令和元年度決算）

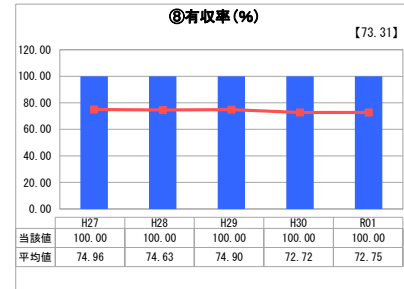
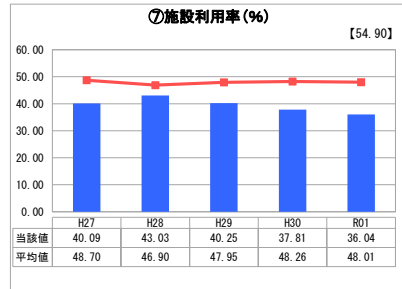
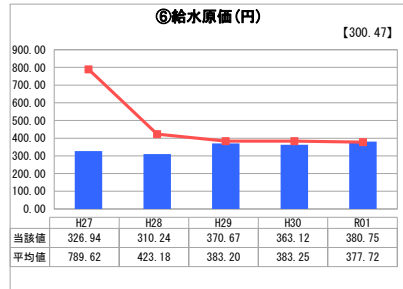
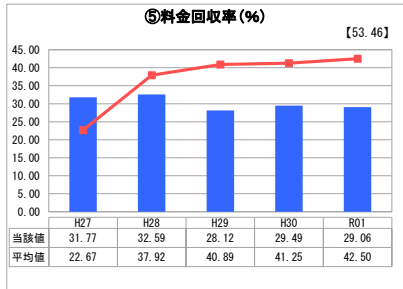
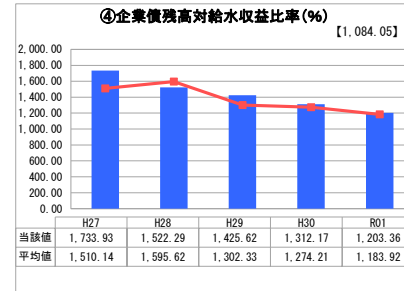
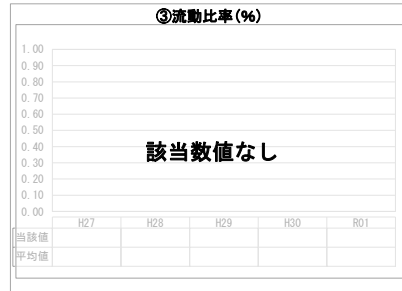
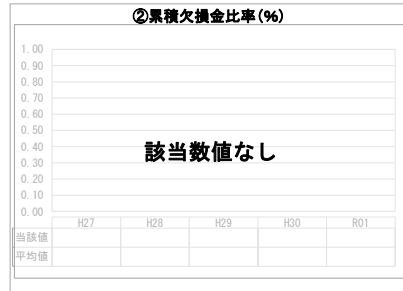
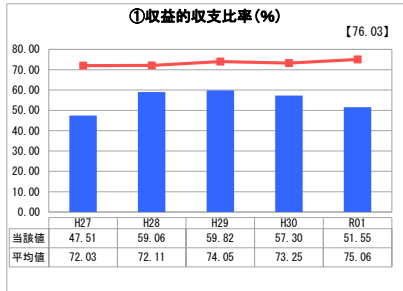
宮崎県 諸塚村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	該当数値なし	40.01	2,200	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,649	187.56	8.79
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
637	0.83	767.47

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

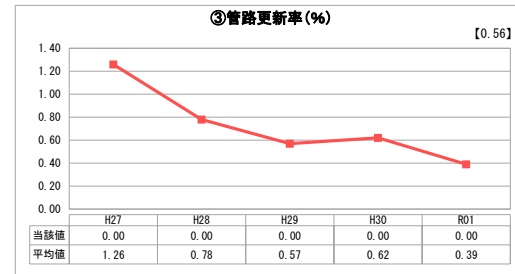
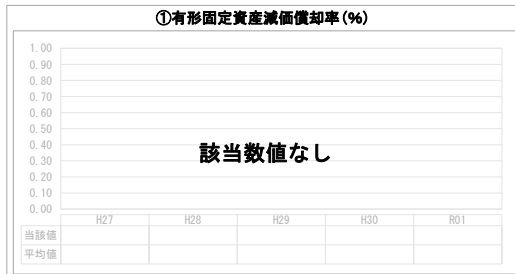
1. 経営の健全性・効率性について

- ・「①収益的収支比率」は、類似団体平均を下回っている状態で、経営の健全性が保たれているとは言えない状態である。
- ・「⑤料金回収率」は29%と全国平均を下回っており、未だ一般会計からの繰入金に依存している状況である。
- ・「④企業債残高対給水収益比率」に関しては、年度を追う毎に右肩下がりに推移しており、今後類似団体平均値を下回ることが予測される。
- ・「⑥給水原価」については全国平均を若干上回っているため、「⑦施設利用率」と併せ継続して注視していく必要がある。
- ・「⑦施設利用率」については平成26年度以降平均値を下回っている。しかし、区域内の全施設にも活用されている実情から一定の評価はでき、今後給水人口の推移を注視していく必要がある。
- ・「⑧有収率」については100%を維持できている。経営の効率性については全国平均と同等であることから、健全性は概ね保たれていると言える。

2. 老朽化の状況について

- ・老朽化の状況については、比較できる指標がないものの、村内における簡易水道施設は整備後の維持管理は適正に行われている。
- ・現在、各簡易水道施設整備から20年ほど経過しており、耐用年数以上経過している配管は無い状態である。
- ・配管の老朽化による漏水等の故障報告も無いが、今後年度毎の更新も必要になってくると思われ、事業計画等による適正な管理が必要と思われる。
- ・老朽化による故障を招く前に、一早く更新対応に当たりたい。

2. 老朽化の状況



全体総括

有収率については高水準で推移しているため良い評価ができるが、収益的収支比率や料金回収率に比べると、収益のほとんどが一般会計繰入金によるものと分析でき、施設利用率は減少傾向にある。企業債残高対給水収益比率は年々減少傾向にあり、今後会計の負担軽減が見込まれる。

老朽化についても、稼働からの経年劣化が進む中、更新の検討も必要であるが、給水人口の推移も注視し、事業規模見直しや施設・管路の維持に努めていきたい。また、老朽化に対応するため、限られた財源の中で優先順位をつけた更新計画を検討する必要がある。

経営戦略は策定済である。